

令和2年度

一般選抜学生募集要項

- 文学部
- 公共政策学部
- 生命環境学部

京都府立大学

目 次

◎ アドミッション・ポリシー	-----	1
◎ 令和2年度京都府立大学一般選抜試験学生募集要項		
1 募集人員	-----	11
2 日 程	-----	11
3 入学者の選抜方法	-----	12
4 出願資格	-----	12
5 身体等に障害のある入学志願者との事前相談について	-----	12
6 出願期間	-----	13
7 出願先	-----	13
8 出願書類	-----	13
9 大学入試センター試験を利用する教科・科目等	-----	14
10 個別学力検査の試験会場	-----	17
11 個別学力検査の教科・科目・時間	-----	17
12 個別学力検査受験についての注意事項	-----	18
13 悪天候・災害等の試験実施について	-----	19
14 大学入試センター試験及び個別学力検査の配点	-----	19
15 合格発表	-----	20
16 入学手続	-----	20
17 追加合格	-----	21
18 学費等納付金（入学料・授業料等）	-----	21
19 試験成績の情報提供について	-----	21
20 個人情報の取扱い	-----	21
◎ 個別学力検査 試験会場案内図	-----	22

添付書類

- 入学願書等＜A票～E票＞（前期日程用、後期日程用）
- 連絡用宛名シール（前期日程用、後期日程用）
- 出願用封筒（前期日程用、後期日程用）

アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

【文学部】

教育の理念・目標

文学部は、人間の文化的・社会的営為に関する人類の叡智を継承し、ことばと文学、歴史と文化遺産、和食文化にかかわる専門領域を深く教育・研究するとともに、その成果を広く社会に還元します。さらに現代社会・地域社会が提起する諸課題にこたえるために、知の拠点として、つねに新たな教育・研究領域を開拓することを目指し、次のような人材の育成を目標とします。

1. 人文学のたゆまぬ研究と教育を通じて、幅広い教養を備えるとともに、豊かな人間性と高度な専門性を身に付けた人材を育成します。
2. 幅広い教養と専門知識を融合させ、総合的な視野や多様な価値観を養うことにより、地域文化・地域課題をにない、また、国際化社会にも貢献しうる人材を育成します。

アドミッション・ポリシー

文学部では、次のような能力を修得している学生を求め、入学者選抜の方針を定めます。

【入学前に修得しているべき能力（知識・思考力、技能、意欲・関心・態度等）】

- 1 高等学校等で修得する十分な基礎学力
- 2 日本語および外国語を通じた異文化理解
- 3 知識や経験を総合し、課題の解決へと導く思考力
- 4 日本および世界の文化・歴史に対する正確な知識
- 5 自己の見解を的確に示す表現力や論述力
- 6 学校内外での主体的な取り組みや他者との協働活動
- 7 志望分野に対する問題意識

【入学者選抜の方針】

文学部では、こうした学生像や「文学部の教育の理念・目標」に適する能力を考査・選抜するために、大学入試センター試験と個別学力検査を組み合わせた一般選抜のほか、推薦入試、編入学試験を実施します。各試験における審査の観点や判定方法等は、各学科において定めています。

【日本・中国文学科】

日本・中国文学科は、日本と中国の言語・文学について探究することを目的として、日本語学・日本文学・中国文学について、相互の関連を踏まえながら専門的な教育・研究を行い、各分野について深い知識を持ち、かつ三分野を関連づけて思考することのできる人材を養成します。

アドミッション・ポリシー

日本・中国文学科では、日本や中国の言語や文学に対して強い関心を持ち、同時に人間や社会に対して幅広く目を向け、自ら問題を発見し、解決しようとする意力を備え、また、文献の読解に取り組む粘り強さと、多角的な視点からものごとを見る柔軟さを持った学生を求めます。そのために必要な能力は以下のとおりです。

【入学前に修得しているべき能力（知識・思考力、技能、意欲・関心・態度等）】

- 1 高等学校での基礎的諸教科、とりわけ国語、外国語、地理歴史、公民についての十分な学力
- 2 異文化理解に資する外国語・日本語の運用能力
- 3 日本や中国の文化を言語や文字などを通して考察できる能力
- 4 世界、特に日本・中国の文化・歴史に対する正確な知識
- 5 自らの問題意識を論理的・客観的に文章化して表現する能力
- 6 主体性を持って他者と協働する能力
- 7 日本語学・日本文学・中国文学に対する問題意識

【入学者選抜の方針】

日本・中国文学科は、こうした能力を持つ学生を考査・選抜するために、大学入試センター試験と個別学力検査を組み合わせた一般選抜、推薦入試、編入学試験を実施します。

●一般選抜（前期日程）

上記1～4についての基本的な能力は大学入試センター試験（国語、外国語、地理歴史・公民）により、また、1～4の応用的な能力および5については記述式問題を重視した3教科（国語・外国語・歴史）の個別学力検査によるバランスのとれた学力を考査し、全体に国語の配点を高め、大学入試センター試験と個別学力検査を組み合わせて入学者を選抜する。

●一般選抜（後期日程）

上記1～4についての基本的な能力は大学入試センター試験（国語、地理歴史・公民、外国語）により、また、1～4の応用的な能力および5については記述式問題を重視した個別学力検査において国語により秀でた学力を考查し、全体に国語の配点を高め、大学入試センター試験と個別学力検査を組み合わせる。

●推薦入試

上記1～4についての基本的な能力および6・7については推薦書・調査書により確認するとともに、1～4の応用的な能力および5については記述式問題により優れた学力を評価し、総合的に入学者を選抜する。

●編入学試験

上記1～4についての基本的な能力は調査書または成績証明書により、また、1～4の専門的な能力および5については筆記試験、6・7については志望理由書および面接により確認し、総合的に入学者を選抜する。

〔欧米言語文化学科〕

欧米言語文化学科は、多文化共生の時代に必要な異文化理解を深めることを目的として、欧米言語文化・英語学英語教育学・国際文化交流・日英翻訳文化の教育研究を行い、高度な外国語運用能力・柔軟な思考力・問題発見能力・自己表現力を備えた、広い国際的視野を持った人材を養成します。

アドミッション・ポリシー

欧米言語文化学科では、広い視野と関心を持って、独自の視点から問題を探求し、客観的かつ多面的考察・分析をおこない、その成果を論理的な言葉で表現できる人材を育成します。入学者選抜にあたっては、こうした欧米言語文化の研究方法に対する能力・適性を考查します。したがって本学科では、以下のとおりアドミッション・ポリシーを定めています。

【入学前に修得しているべき能力（知識・思考力、技能、意欲・関心・態度等）】

- 1 教養の基礎となる高等学校等で履修する基本的な知識と理解力
- 2 日本語と外国語の優れた言語能力
- 3 言葉の力や人類が培ってきた様々な思想を理解するための共感能力、柔軟な思考力と問題把握能力
- 4 過去から現代に至る欧米と日本の文化・社会に強い関心を持ち、言葉の仕組み、機能を理解し、思考する能力
- 5 自ら見出した問題を論理的に考え、自分の言葉で表現する能力
- 6 学校内外での主体的な取り組みや他者との協働活動への意欲
- 7 欧米言語文化に対する問題意識

【入学者選抜の方針】

欧米言語文化学科は、こうした能力を持つ学生を考查・選抜するために、大学入試センター試験と個別学力検査を組み合わせる一般選抜、推薦入試、編入学試験を実施します。

●一般選抜（前期日程）

上記1～4の基本的な知識および理解を考查する大学入試センター試験（国語、外国語、地理歴史・公民）と1～4の応用力と5について外国語ならびに国語の文章読解力や文章作成力、論理的な思考力、歴史に関する適切な理解を通じて適宜考查する個別学力検査（国語・外国語・歴史）を組み合わせる。

●一般選抜（後期日程）

上記1～4の基本的な知識および理解を考查する大学入試センター試験（国語、外国語、地理歴史・公民）と1～4の応用力と5について欧米言語文化学科の求める高度な外国語理解力や外国語文章作成力、論理的な思考力を通じて適宜考查する個別学力検査（外国語）を組み合わせ、後者の配点をその他の科目よりも高くして入学者を選抜する。

●推薦入試

上記1～4の基本的な能力および6・7については推薦書・調査書により確認するとともに、1～4の応用力および5については記述式問題により考查し、総合的に入学者を選抜する。

●編入学試験

上記1～4についての基本的な能力は調査書または成績証明書により、また、1～4の応用力および5については筆記試験により、6・7については志望理由書により確認し、総合的に入学者を選抜する。

〔歴史学科〕

歴史学科は、人間の文化的・社会的営為について歴史と文化遺産に関わる専門的領域を考究することを目的として、日本を中心としてひろく世界についてその社会と文化、思想の歴史的展開に関する

教育研究を行い、人類の過去と現在、未来に対する洞察力、分析力をもつ人材、さらに歴史的遺産を理解しその継承に資する人材を養成します。

アドミッション・ポリシー

歴史学科では歴史学に対する深く幅広い知見を備え、資史料を運用する能力、文化遺産を調査・保存・活用する能力を備えた人材を育成します。入学試験にあたっては、こうした歴史学の研究方法に対する能力・適性を考査し、入学者を選抜します。本学科では、そのために以下のとおりアドミッション・ポリシーを定めています。

【入学前に修得しているべき能力（知識・思考力、技能、意欲・関心・態度等）】

- 1 高等学校で修得する諸教科、とりわけ国語、外国語、地理歴史についての十分な基礎学力
- 2 自国の文化及び異文化に対する十分な理解
- 3 歴史研究の基礎となる資料や文献の読解に必要な思考力・解釈力・想像力
- 4 日本および世界の歴史に対する正確な知識
- 5 自己の見解を的確に示す表現力や論述力
- 6 学校内外での主体的な取り組みや、他者と協働する協調性
- 7 歴史学に対する深い関心、文化遺産の調査・保存・活用に対する強い意欲

【入学者選抜の方針】

歴史学科では、こうした能力を考査するために、大学入試センター試験と個別学力検査を組み合わせた一般選抜、推薦入試、編入学試験を実施します。

●一般選抜（前期日程）

上記1～4についての基本的な能力は、大学入試センター試験（国語、外国語、地理歴史・公民）によって評価する。また1～4の応用的な能力および5については、記述式問題を重視した3教科の個別学力試験（国語、外国語、歴史）により、評価する。

●一般選抜（後期日程）

上記1～4についての基本的な能力は、大学入試センター試験（国語、外国語、地理歴史・公民）により、評価する。また1～4の応用的な能力および5については、記述式問題を重視した個別学力試験（歴史）によって評価する。特に歴史1教科の個別学力試験を課すことにより、4に秀でた学生を選抜する。

●推薦入試

上記1～4についての基本的な能力および6・7については、推薦書・調査書によって確認するとともに、1～4の応用的な能力および5については、小論文などによって評価し、総合的に入学者を選抜する。

●編入学試験

上記1～4についての基本的な能力は、調査書または成績証明書によって評価する。また、1～4の専門的な能力および5については筆記試験、6・7については志望理由書および面接により確認し、総合的に入学者を選抜する。

〔和食文化学科〕

和食文化学科は、日本人の伝統的な食文化に内在する普遍的価値を探究することを目的として、生活文化としての食を歴史的・文学的に読み解くとともに、産業としての食の可能性に技術的・経営的な側面から迫る教育研究を行い、和食文化の神髄と魅力を世界に向かって発信し、我が国における和食文化の保護・継承・発展に寄与できる人材を養成します。

アドミッション・ポリシー

和食文化学科では、和食文化全般に対して強い関心を持ち、同時に人間や社会全般に対して幅広く目を向け、自ら問題を発見し、解決しようという意欲を備え、また文献の読解に取り組む粘り強さと、多角的な視点からものごとを見る柔軟さを持った学生を求めます。そのために必要な能力は以下のとおりです。

【入学前に修得しているべき能力（知識・思考力、技能、意欲・関心・態度等）】

- 1 高等学校の基礎的諸教科の十分な修得
- 2 異文化理解に資する日本語・外国語の運用能力
- 3 和食文化研究の基礎となる文献の読解や実験に必要な思考力
- 4 自国の自然・歴史・文化及び異文化に対する幅広い知識
- 5 自らの問題意識を論理的・客観的に表現する能力
- 6 主体性をもって異なる立場・専門・文化を有する他者と協働する能力
- 7 食に関わる自然現象への関心と社会が抱える諸課題の解決に関する関心
- 8 食文化への好奇心と学びに対する意欲

【入学者選抜の方針】

和食文化学科では、こうした能力を持つ学生を考査・選抜するために、大学入試センター試験と個別学力検査を組み合わせた一般選抜、推薦入試を実施します。

●一般選抜（前期日程）

上記1～4についての基本的能力は大学入試センター試験（国語、外国語、地理歴史・公民、数学、理科）により、また1～5の応用的な能力については記述問題を重視した3教科（国語、歴史、外国語）の個別学力検査により評価し、両者を組み合わせ入学者を選抜する。

●一般選抜（後期日程）

上記1～4についての基本的能力は大学入試センター試験（国語、外国語、地理歴史・公民、数学、理科）により、また1～5の応用的な能力および7については個別学力試験として小論文を課し、学科の学びに関連する多様な資料を理解した上で自分の考えを展開する論理的な思考力と食を取り巻く社会課題への関心と理解の深さを評価して、両者を組み合わせ入学者を選抜する。

なお、後期日程においては、特に上記3の観点を重視し、大学入試センター試験の理科の配点を高く設定する。

●推薦入試

上記1～7の基本的な能力は推薦書・調査書によって確認し、また1～5の応用的能力および7については小論文により、8については志望理由書により評価して、総合的に入学者を選抜する。

【公共政策学部】

教育の理念・目標

公共政策学部は、生涯にわたる人間発達を多様に実現しうる社会（福祉社会）を、個人、NPO、地域コミュニティ、企業、行政などが協働して築くために、より高い政策立案能力や問題発見・解決能力を持った人材、地域における福祉や人間形成の担い手となる人材を育成します。

アドミッション・ポリシー

公共政策学部では、次のような能力を修得している学生を求め、入学者選抜の方針を定めます。

【入学前に修得しているべき能力等】

- 1 高等学校等で修得する十分な基礎学力
- 2 知識や経験を総合し、課題の解決へと導く思考力
- 3 自己の見解を的確に示す表現力や論述力
- 4 志望分野に対する問題意識
- 5 公共政策学科および福祉社会学科が求める能力

【入学者選抜の方針】

公共政策学部では、こうした能力を考査し、入学者を選抜するために、大学入試センター試験と個別学力検査を組み合わせた一般選抜、推薦入試、編入学試験を実施します。各試験における審査の観点や判定方法等は、公共政策学科および福祉社会学科がそれぞれ具体的に定めることとします。

〔公共政策学科〕

公共政策学科は、福祉社会の創造を目的として、法学・政治学・経済学をはじめとする社会科学の諸分野から公共政策のあり方についての教育研究を行い、地域・自治体の政策立案及び管理運営に寄与しうる能力を有する人材を養成します。

アドミッション・ポリシー

公共政策学科では、住民が心ゆたかに暮らせる地域づくりにとって必要かつ有用な法学、経済学、政治学の理論を修得し、地域社会が抱える問題を的確に把握するとともに、それを解決するための政策を立案する能力を養い、さまざまな個人、NPO、地域コミュニティ、企業、行政など多様な主体が協働して築き上げる「公共政策」のあり方を学びます。入学試験においては、こうした教育研究に適した能力・適性を有するかを考査し、入学者を選抜します。

【入学前に修得しているべき能力等】

- 1 高等学校等で履修する国語、地理歴史または公民、理科、数学、外国語についての基本的な知識
- 2 日本語および外国語の文章読解力および文章作成力
- 3 現代社会の制度・政策に対する理解（または関心）。また、国や地域（社会）の発展のため、制度・政策の問題点を発見し、解決しようとする意欲

- 4 現代社会が求める幅広い思考力、柔軟な発想力および自分の言葉で表現できる能力
- 5 地域（社会）と積極的に関わり、修得した能力・知識を活用して地域（社会）に貢献するとともに、自己実現を目指す意欲

【入学者選抜の方針】

公共政策学科では、こうした能力を考查し、入学者を選抜するために、大学入試センター試験と個別学力検査を組み合わせた一般選抜、推薦入試、編入学試験を実施します。

●一般選抜（前期日程・後期日程）

▼大学入試センター試験：公共政策学が学際性を有しその研究には幅広い知識を要することから、大学入試センター試験では、高等学校等で履修する主要科目（国語、地理歴史または公民、理科、数学、外国語）について、文理の別なく、基本的な知識を有するかを考查します。

▼個別学力検査：前期日程では、英語と国語を課し、文章読解力、論理的な思考力および文章作成力を有するかを考查します。後期日程では、小論文を課し、文章読解力、論理的な思考力および文章作成力を基盤に、社会問題を解決するために必要な柔軟な発想力を有するか、また、自分の言葉で表現できる能力を有するかを判定します。

●推薦入試

推薦入試では、調査書によって、地域貢献および自己実現に求められる主体性および積極性を確認し、小論文において、文章読解力、論理的な思考力および文章作成力を基盤に、社会問題を解決するために必要な柔軟な発想力を有するか、自分の言葉で表現できる能力を有するか、さらに、実証研究に必要なデータ分析能力を有するかを判定します。また、推薦書によって、学科の教育研究で必要となる問題への関心および主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度を備えているかを確認します。

●編入学試験

▼筆記試験：英語では、文章読解力、論理的な思考力および文章作成力を有するかを考查します。小論文・用語解説では、小論文において、文章読解力、論理的な思考力および文章作成力を基盤に、社会問題を解決するために必要な柔軟な発想力を有するか、また、自分の言葉で表現できる能力を有するかを判定し、用語解説において、編入学後に耐える専門的な基礎知識を有するかを判定します。

▼面接：面接では、筆記試験で判定する能力等を口頭で確認するとともに、志望理由書を踏まえ、地域貢献および自己実現に求められる主体性および積極性を確認します。

〔福祉社会学科〕

福祉社会学科は、福祉社会の創造を目的として、社会福祉学・社会学・教育学・心理学等の諸分野から教育研究を行い、地域の福祉と人びとの生涯発達に寄与しうる能力を有する人材を養成します。

アドミッション・ポリシー

福祉社会学科では、社会福祉学・社会学・教育学・心理学などの専門分野の教育研究を通して、人々が直面するさまざまな生活問題や福祉ニーズに対応して、人々の生活を支援する政策・制度・方法と実践のあり方を学ぶ（社会福祉学群）とともに、人間の成長・発達や行動・相互作用、そして教育のあり方について科学的な理解を養います（人間形成学群）。入学試験においては、こうした教育研究に適した能力・適性を有するかを考查し、入学者を選抜します。

【入学前に修得しているべき能力等】

- 1 高等学校での基礎的諸教科（国語、数学、外国語、地理歴史・公民、理科）についての十分な学力を有している。
- 2 人間の福祉と社会連帯のあり方に実践的な関心を持ち、地域と社会の現実的問題を把握している。
- 3 人間の発達、行動、教育と社会形成の課題を理解し、その解明に強い関心を持っている。
- 4 これらの福祉・社会・教育・心理の問題を論理的に考え、自分自身の意見を持ち、それを整理して表現できる基礎的な学力を有している。

【入学者選抜の方針】

福祉社会学科では、こうした能力を考查し、入学者を選抜するために、大学入試センター試験と個別学力検査を組み合わせた一般選抜、推薦入試、編入学試験を実施します。

●一般選抜（前期日程・後期日程）

・前期日程・後期日程ともに大学入試センター試験の5教科（国語、地歴・公民、数学、理科、外国語）の試験科目を通して、高等学校での基礎的諸教科の学力を十分に備えているかを判定する。

・福祉、社会連帯、地域、人間の発達・教育、社会形成といった多様な人々の関わる問題を考え抜く論理的な思考力・判断力、そしてそれらに対する自分の考えを表現する力を見るため、大学入試センター試験の地歴・公民の配点を他教科の2倍にし、前期日程個別学力試験では国語と英語を、後期日程の個別学力試験では小論文の試験を実施する。前期日程は基礎学力を重視するの

に対して、後期日程では学科での学びに関連する多様な資料を理解した上で自分の考えを展開する論理的な思考力を重視する。

●推薦入試

高等学校における基礎的諸教科について優秀な成績を修めた受験生を対象として、福祉社会の実現に関する諸問題を扱った文章や数量データを読み解き、自分自身の答えを論理的に導き出し、まとめあげる力を調べる小論文の試験を実施し、学科の教育研究に適した能力を有するかどうかを判定する。また、推薦書・調査書を通して、学科の教育研究で必要となる福祉・地域・人間発達・教育の問題への関心および主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度を備えているかを確認する。

●編入学試験

▼筆記試験：英語の試験では、英語の基礎的な知識の有無を判定すると同時に、福祉や公共政策の諸問題に関連する内容の英文を読み解くことで、論理的な思考力および文章作成能力を調べると同時に、学科の教育研究領域への関心を確認する。小論文・用語解説では、小論文において、学科での学びに必要な読解力、論理的な思考力、文章表現力を調べるとともに、福祉、地域、人間の発達・教育、社会形成等の問題への関心と理解の深さを調べる。また、用語解説では、入学後の学習に必要な専門分野の基礎知識を有しているかを判定する。

▼面接：面接では、志望理由書をベースに学科の教育研究領域への関心および多様な人々と協働して学ぶ態度を備えているかを確認する。

【生命環境学部】

教育の理念・目標

生命環境学部は、「生命」と「環境」に関わる諸領域の学術を学際的、総合的に考究することを目的として、人間の生活や産業などの諸活動と自然環境との共生を図るための知識と技術を身につけられるようにします。具体的には、

- 1 生命分子機能の応用
- 2 生物機能開発と食料生産の向上
- 3 食環境と健康の向上
- 4 自然環境と情報環境の向上
- 5 人間生活と住環境の向上
- 6 森林の保全と利用

に関わるそれぞれの領域で、第一線で活躍できる人材育成を目標としています。

アドミッション・ポリシー

生命環境学部では、生命や環境に関して深い関心を持ち、それらが関係する領域の第一線で活躍する意欲に溢れる次の資質を持つ人を求めています。

【入学前に修得しているべき能力】

- 1 高等学校等における各種学習内容を幅広く理解している。
- 2 生命と環境に関する基礎学問である自然科学系科目を論理的に理解している。
- 3 論理的な思考力や柔軟な発想力を持ち、自分の考えを的確に述べる基本的なコミュニケーション能力を身につけている。

【入学者選抜の方針】

本学部の入学試験では、一般選抜においては、大学入試センター試験において1. について評価すると共に、特に前期日程において、個別学力検査を実施することで2について記述式問題の解答を通じて評価します。さらに推薦入試では、3に対する評価も実施して優れた人材を見出します。それぞれの入学試験における配点は、学科ごとに異なりますが、いずれもそれぞれの学科が求める基礎学力に応じたものとしています。編入学試験では、環境・情報科学科と環境デザイン学科が実施しており、それぞれの学科が求める基礎学力や意欲に応じる人材を見いだすための評価を行います。

〔生命分子化学科〕

生命分子化学科は、生命現象と生命環境を分子レベルで理解し、科学の進歩と社会の科学的課題の解決に貢献することを目的として、少数精鋭の実験を重視した体系的な生命化学の教育研究を行い、広い視野と論理的思考力を有し、専門知識と先端技術を展開して社会に貢献できる次のような人材の育成を目指します。

- 1 「化学」を基盤として生命科学を学び、生命現象の解明、医薬品開発、機能性材料の創成、地球環境の保全といった社会の要請に応える人材を育てます。
- 2 高い倫理観と使命感に裏付けられた問題発見・提起力とともに、着実な論理の積み重ねによる問題解決能力を身につけた社会を先導する人材を育てます。

アドミッション・ポリシー

生命分子化学科では化学をはじめとする理科に強い興味があり、論理的で、自主性と想像力に富んだ人間性を高めたい人を求めます。また、入学後も一層の勉学意欲と向上心を持ち続け、厳しい学力評価に耐えうる心構えを持っていることが望まれます。

【入学前に修得しているべき能力】

生命分子化学科が求める学生は、入学前に次のような資質を有している必要があります。

- 1 高等学校での基礎的諸教科（国語、数学、理科、外国語、地理歴史・公民）について十分な基礎学力を身につけている。
- 2 特に化学、物理、生物、数学のいずれか、もしくはいくつかに秀でている。
- 3 基本的な読解力・思考力・表現力を兼ね備え、基礎課題に対して自らの表現方法で的確に解答できる。
- 4 グループ実験や研究活動を遂行するための論理的思考力・コミュニケーション能力・協調性が高く、積極性とチャレンジ精神に富んでいる。

【入学者選抜の方針】

生命分子化学科では、こうした能力を考査するため、大学入試センター試験と個別学力検査を組み合わせた一般選抜、推薦入試を実施します。

●一般選抜（前期日程）

大学入試センター試験において国語、数学、理科、外国語、地理歴史・公民を課して上記1を評価するとともに、個別学力検査において記述式問題を中心とする数学、理科、英語を課して上記3を評価する。個別学力検査では、上記2の観点から理科の配点を高く設定する。

●一般選抜（後期日程）

大学入試センター試験において国語、数学、理科、外国語を課して上記1を評価する。上記2の観点から理科および数学の配点を高く設定する。

●推薦入試

高等学校までの英語および理科系科目全般について、基礎力と思考力を合わせた総合的な学力を身につけていることを求めるとともに、推薦書・調査書・志望理由書・面接において上記1と4を評価する。面接では上記2の観点からの評価も重視する。

〔農学生命科学科〕

農学生命科学科は、「ゲノムから生産まで」の方針のもと、生物機能の開発とその高度利用技術、それらの社会経済的側面について教育・研究を行い、農業とそれに関連する諸産業の発展に広い視野をもって寄与できる人材を養成します。

アドミッション・ポリシー

農学生命科学科では、本学科の方針である「ゲノムから生産まで」にふさわしい学生を求めため、次のとおりアドミッション・ポリシーを定めています。

【入学前に習得しているべき能力】

農学生命科学科では英語、国語、数学、理科（生物、化学、物理）の基礎学力があることを前提として、以下の素養を身につけた学生を求めます。

- 1 生物・生命の諸性質や機能に対する興味、そして未知の課題を探求する勇気と強い意志を持ち、生物に関する知識だけではなく、それらを活用して未知の課題に論理的に取り組むことの出来る能力。
- 2 科学の基礎的な問題だけではなく、実社会の問題に取り組み、日本や世界の農業と食料の問題、それらに関連する技術、流通経済、諸産業などに興味をもち、自律的に考え、学ぶ態度。
- 3 科学技術が急速な発展・変貌を遂げている現代において常に新しい困難な課題に取り組むことが求められているため、学部4年間の学習を基礎として大学院に進学し、農学生命科学の最先端の課題にチャレンジし、人類の知と技術の地平を積極的に切り拓きたいという意欲。

【入学者選抜の方針】

農学生命科学科では、こうした能力を考査するため、大学入試センター試験と個別学力検査を組み合わせた一般選抜、推薦入試を実施します。

●一般選抜（前期日程）

高等学校までに履修する全ての教科のうち、大学入試センター試験で指定された教科（国語、地理歴史・公民、数学、理科、英語）に加え、独自に実施する試験で正確な知識に基づき論理的に解答する能力を求めます。数学、理科については傾斜配点により理系分野の基礎学力の高い学生を選抜する。

●一般選抜（後期日程）

高等学校までに履修する全ての教科のうち、英語と、理系分野に相当する大学入試センター試験の指定教科（数学、理科）について、正確な知識に基づき論理的に解答する能力のある学生を選抜する。

●推薦入試

高等学校までの英語および理科系科目全般について、基礎力と思考力を合わせた総合的な学力を身につけていることを求める。加えて社会の様々な動向にも興味や問題意識をもち、それら进行分析しようとする探究心と自分の考えを正確に他人に説明する能力をもつ学生を、提出された推薦書・調査書・志望理由書の精査と面接などを含む試験により選抜する。

〔食保健学科〕

食保健学科は、「食」を通して生活の質を向上させることを目的として、「食」と「健康」を取り巻く要因を総合的に捉え、望ましい食生活のあり方について教育研究を行い、「食」に関する高い見識を持ち、課題解決能力を持った、社会に貢献できる人材を養成します。

アドミッション・ポリシー

食保健学科では「食」と「健康」を取り巻く要因を総合的に捉え、それについての知識を学び、その知識を生かして社会に貢献したい学生を求めます。

【入学前に修得しているべき能力】

食保健学科では、次のような資質を持つ人を求めています。

- 1 高等学校までの基礎的諸教科について十分な基礎学力を身につけている。
- 2 理科は理科関連科目（化学と生物を履修していることが望ましい）を12単位以上履修している。
- 3 基本的なコミュニケーション能力を身につけている。
- 4 自分の考えを的確に伝えるための表現力を身につけている。
- 5 食や健康分野に興味関心があり、この分野を生涯にわたって学ぶ意欲を持っている。
- 6 課題の発見・解決への貢献と知識探究に意欲を持っている。
- 7 多様な状況下で、相手の立場や多様性を尊重できる協働性を身につけている。

【入学者選抜の方針】

食保健学科では、こうした能力を考査するため、大学入試センター試験と個別学力検査を組み合わせた一般選抜、推薦入試を実施します。

●一般選抜（前期日程）

基礎力の把握のために、大学入試センター試験（5教科7科目）と個別学力検査（英語、物理・化学・生物から2科目選択）を課し、高等学校で修学した基本的な知識と理解力について評価する。

●推薦入試

推薦書、調査書、小論文および面接により総合的に評価し、入学者を選抜する。

小論文では、課題に対する知識、理解力、英語力、分析力、論理的思考力、表現力等を評価する。面接では、食保健学科の学びの目的意識や意欲、およびコミュニケーション力を総合的に判断する。

〔環境・情報科学科〕

環境・情報科学科は、自然環境、情報環境の向上を目的として、生物学、化学、物理学、情報学、数学にわたる教育研究を行い、科学技術を生活の向上に生かすことができる人材を養成します。

アドミッション・ポリシー

理工系分野で世界に通用する専門家になるためには、まず好奇心と論理的思考力と表現力が必要です。各理系科目を暗記ではなく理解して、自分の言葉でその内容を語る能力があるかを重要視します。

【入学前に修得しているべき能力（知識・思考力、技能、意欲・関心・態度等）】

環境・情報科学科では、次のような資質を持つ人を求めています。

- 1 高等学校等において各種の学習内容を幅広く理解している。
- 2 思考力・判断力・表現力を兼ね備え、培われてきた学力を基に自分の考えを的確に記述できる。
- 3 普通科の生徒については、数学Ⅲと理科12単位以上を修得している。情報科学科の生徒については、数学は数Ⅲ関連科目を修得し、理科は理科関連科目（本来の理科学科の他に情報関連科目などを含める）を12単位以上修得している。工業高校の生徒については、数学は数学関連科目（本来の数学科目の他に、応用的な数学を主たる内容とした科目も含める）を13単位以上修得している。理科は理科関連科目（本来の理科学科の他に、応用的な理科を主たる内容とした科目も含める）を12単位以上修得している。

- 4 柔軟な発想のもとに思考し、豊かな創造性を身につけている。
- 5 社会に役立つ物質の創成、新しい技術の開発への夢を語れる。
- 6 先端科学技術を人々の生活の向上に生かそうという意欲をもつ。

【入学者選抜の方針】

環境・情報科学科では、こうした能力を考查するため、大学入試センター試験と個別学力検査を組み合わせた一般選抜、推薦入試、編入学試験を実施します。

●一般選抜(前期日程)

上記1について、大学入試センター試験において、国語、地理歴史・公民、数学、理科、外国語を課す一方で、上記2について、個別試験の配点を高めに設定し、数学、理科を課し、記述式問題を重視する。

●推薦入試

上記3について、これを推薦条件に含め、上記1、2、4～6について、推薦書、調査書、テーマ作文、面接の総合判定を行う。

●編入学試験

一般選抜では、上記1、2、4～6について、調査書または成績証明書、英語および専門科目の筆記試験、面接の総合判定を行う。

推薦選抜では、上記1、2、4～6について、推薦書、調査書または成績証明書、小論文、面接の総合判定を行う。

〔環境デザイン学科〕

環境デザイン学科は、豊かな生活環境の実現を目的として、住居・建築学、生活デザイン・ランドスケープデザインについて教育研究を行うことにより、広い教養と総合的な判断力を持ち、人と環境に優しい生活環境と生活様式の創造ができる人材を養成します。

アドミッション・ポリシー

環境デザイン学科では、人と環境にとって望ましい住居、建築、都市、地域、暮らしのデザインについて、生活者の視点から科学的に追及し、総合化し提案する意欲のある人を求めています。

【入学前に修得しているべき能力（知識・思考力、技能、意欲・関心・態度等）】

環境デザイン学は、住居・建築学を基盤としつつ、循環型社会、ランドスケープ、プロダクト、生活美学などを包摂する幅広い専門領域にわたります。

そのために、環境デザイン学科では、つぎのような資質を持つ人を求めています。

- 1 高等学校での基礎的な諸教科（国語、数学、理科、外国語、地理歴史・公民など）についての十分な基礎学力
- 2 緻密な論理的思考力と判断力、社会に対する洞察力、デザインや造形に強い関心を持ち、表現し提案することへの熱意
- 3 生活環境がもつさまざまな側面を、技術的・文化的・社会的に把握するとともに、それが生み出されていくプロセスを理解し、実際にすぐれたモノや空間を構築したりデザインしたりするための基礎的素養と意欲

【入学者選抜の方針】

環境デザイン学科では、こうした能力を考查するため、大学入試センター試験と個別学力検査を組み合わせた一般選抜、推薦入試、編入学試験を実施します。

●一般選抜(前期日程)

上記1に関する基礎学力の高い人材を見出すため、大学入試センター試験において、国語、地歴・公民、数学、理科、外国語を課し、個別学力検査において、外国語と理科を課す。

●一般選抜(後期日程)

上記1を確認するため、大学入試センター試験において、国語、地歴・公民、数学、理科、外国語を課し、上記2、3に関する高い能力をもつ人材を見出すため、個別学力検査において美術実技を課す。

●推薦入試

上記1については推薦書・調査書・志望理由書で確認し、上記2、3に関する高い能力をもつ人材を見出すため小論文と面接を行う。

●編入学試験

上記2、3に関する基礎的な知識や能力の高さを確認するため、英語を課すことにより基礎学力の一端を確認し、上記2、3に関する豊富な知識と意欲・熱意を持つ人材を見出すため、専門科目と面接を課す。

〔森林科学科〕

森林科学科は、地球環境の保全、森林資源の有効利用を目的として、森林とその生産資源に関する事象に対して総合的な教育研究を行い、環境問題、資源問題への取り組みを通じて地域貢献、ひいては国際貢献できる人材を養成します。

アドミッション・ポリシー

森林科学科では、森林に対して興味や探究心を持ち積極的に学ぼうとする人、論理的な思考力や判断力を持って自ら問題を解決できる人、社会の一員として地域貢献や国際社会で活躍する意欲を持っている人、そういった学生を求めています。

【入学前に修得しているべき能力】

- 1 数学、理科に関する基礎的学力
森林科学の基礎的な学問体系となる数学および理科に関する基礎的な学力および分析力、理解力などを有している。
- 2 国語、英語に関する基礎的学力
英文長文などの読解力、論理的に思考できる能力、自分の考えを的確に伝えることができる表現力、他人と相互理解できるコミュニケーション能力などを有している。
- 3 地理歴史・公民の基礎的学力を有している。
- 4 自然や科学に対する興味と探究心を持ち、森林に関する諸問題を積極的に学ぼうとする意欲を持っている。
- 5 自然を慈しみ、自ら問題点を発掘し、物事を論理的に考え、広く社会の状況を把握できる能力を持っている。
- 6 森林に関係する分野において、産業の発展、地域貢献さらには国際的な視野に立った活躍を目指す意欲を持っている。

【入学者選抜の方針】

森林科学科では、こうした能力を考査するため、大学入試センター試験と個別学力検査を組み合わせた一般選抜、推薦入試を実施します。

●一般選抜（前期日程）

大学入試センター試験として、国語、地理歴史・公民、数学、理科、外国語を課すことにより基礎的な学力を評価する。個別学力検査として、数学、理科、外国語を課し、これらの配点を高めに設定し、記述式問題を重視することにより論理的思考力、長文読解力などを評価する。

●一般選抜（後期日程）

大学入試センター試験として、国語、地理歴史・公民、数学、理科、外国語を課すことにより、基礎的な学力に特化した評価をする。

●推薦入試

高等学校までの英語および理科系科目全般について、基礎力と思考力を合わせた総合的な学力を身につけていることを求めるとともに、推薦書、調査書、志望理由書および面接などにより総合的に評価する。

令和2年度京都府立大学一般選抜試験学生募集要項

1 募集人員

学 部	学 科	募集人員（人）		
		前期日程	後期日程	合 計
文 学 部	日本・中国文学科	20	4	24
	欧米言語文化学科	18	4	22
	歴史学科	25	7	32
	和食文化学科	16	5	21
	計	79	20	99
公共政策学部	公共政策学科	30	8	38
	福祉社会学科	30	8	38
	計	60	16	76
生命環境学部	生命分子化学科	20	5	25
	農学生命科学科	28	7	35
	食保健学科	18	—	18
	環境・情報科学科	20	—	20
	環境デザイン学科	25	5	30
	森林科学科	20	6	26
	計	131	23	154
合 計		270	59	329

2 日 程

	前 期 日 程	後 期 日 程
出 願 期 間	令和2年1月27日（月）～2月5日（水）	
試 験 実 施 日	令和2年2月25日（火）	令和2年3月12日（木）
合 格 発 表 日	令和2年3月6日（金）	令和2年3月23日（月）
入 学 手 続	令和2年3月13日（金）	令和2年3月27日（金）

3 入学者の選抜方法

令和2年度大学入試センター試験と、個別学力検査（小論文・実技含む。）の成績及び調査書の結果を総合して入学者を選抜します。

4 出願資格

京都府立大学の一般選抜試験に出願できる者は、次のいずれかに該当する者で、令和2年度大学入試センター試験の教科・科目のうち、本学が学科ごとに指定する教科・科目（P.14～16参照）を受験した者に限ります。

- (1) 高等学校若しくは中等教育学校を卒業した者又は令和2年3月卒業見込みの者
- (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者又は令和2年3月修了見込みの者
- (3) 外国において学校教育における12年の課程を修了した者又は令和2年3月までに修了見込の者又はこれらに準ずる者で文部科学大臣の指定した者
- (4) 文部科学大臣が高等学校の課程に相当する課程を有するものとして指定した在外教育施設の当該課程を修了した者又は令和2年3月までに修了見込の者
- (5) 専修学校の高等課程（修業年限が3年以上であること、その他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定したものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者又は令和2年3月修了見込みの者
- (6) 文部科学大臣の指定した者（昭和23年文部省告示第47号）
- (7) 高等学校卒業程度認定試験規則における高等学校卒業程度認定試験に合格した者（旧規程による大学入学資格検定に合格した者を含む。）又は令和2年3月までに合格見込みの者
- (8) 本学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、令和2年3月31日までに18歳に達する者。ただし、この資格で出願する者は、令和元年12月16日（月）（必着）までに本学へ入学資格認定の申請が必要です。

5 身体等に障害のある入学志願者との事前相談について

(1) 事前相談等

本学では、身体等に障害（学校教育法施行令第22条の3に定める程度、その他これに準じるもの）のある入学志願者の受験時及び入学後の修学する上で必要な支援内容を検討するため、事前相談等の措置を設けています。

このため、入学を志願する者で、身体等に障害があり受験及び修学上特別の配慮を必要とする方は、下記(2)の相談期間に、あらかじめ本学に連絡の上、事前相談の手続きを行ってください。なお、必要な場合は、本学において入学志願者又はその立場を代弁し得る出身学校関係者等との面接を行います。

(2) 相談期間

令和元年11月12日（火）～12月20日（金）

なお、相談の内容により対応に時間を要するものがあるため、相談期間後の相談については、受験上の配慮が講じられない場合もありますので、十分注意してください。

(3) 提出先及び問い合わせ先

京都府立大学学務課入試担当

〒606-8522 京都市左京区下鴨半木町1-5

TEL 075-703-5144

FAX 075-701-2474

6 出願期間

前期日程・後期日程ともに、
令和2年1月27日（月）～2月5日（水）午後5時（必着）

上記期間内に、次の出願書類を本学所定の封筒に封入して書留速達で郵送してください。期限後到着した場合は、**2月4日までの消印のある書留速達郵便に限り、受け付けます。**なお、出願は、原則、郵送としますが、やむを得ない場合は、持参することも可能です。

7 出願先

〒606-8522 京都市左京区下鴨半木町1-5 (TEL 075-703-5144)
 京都府立大学学生部学務課入試担当

8 出願書類

- (1) 試験日程（前期日程・後期日程）ごとに出願書類を提出いただく必要があります。出願書類は、試験日程ごとに所定の封筒に入れて提出してください。
- (2) 後期日程において、個別学力検査を課さない学科についても全ての出願書類提出が必要です。
- (3) A票、B票、C票は切り離さないでください。

出願に必要な書類		作成上の注意事項
A票	入学願書	前期日程への出願者は、令和2年度大学入試センター試験成績請求票の「前期日程用」を、後期日程への出願者は、「後期日程用」を願書に必ず貼付してください。 「記入上の注意」をよく読んで、必要事項をもれなく記入してください。
B票	照合票	写真（上半身・脱帽・正面・サイズ ｸﾞ4 cm×ｺ3 cmで出願日前3か月以内に撮影したもの）を所定欄に貼付してください。
C票	受験票	383円分の切手を必ず貼付してください。
	調査書	文部科学省所定の様式により、出願日前3か月以内に出身学校長が作成し厳封したもの（高等学校卒業程度認定試験合格者等、調査書の交付を受けられない者は、それにかわる合格成績証明書等を提出してください。）
	連絡用宛名シール	住所・氏名を明記してください。
	入学考査料	<p>17,000円 本学所定の「入学考査料振込依頼書（E票）」により、銀行又は信用金庫等の金融機関から振り込んでください。ATM（現金自動預入払出機）での振込はできません（A票への金融機関押印により入金を確認します）。 ア 京都銀行から振り込む場合、手数料は無料 イ その他の金融機関から振り込む場合、所定の手数料が必要（ゆうちょ銀行[郵便局]からは振込不可） ウ 金融機関から振り込めない場合は、ゆうちょ銀行[郵便局]の普通為替証書を同封（入学願書に貼付しない）してください。 (注)・普通為替証書発行には料金437円が必要です。 ・普通為替証書の受取人欄等には記入しないでください。 (本学で一括処理)</p> <p>エ 入学願書受付後は、入学考査料はお返ししません。ただし、本学が指定している大学入学センター試験の教科・科目を受験していないことにより受験資格がないことが明らかになった場合は、既納の考査料のうち13,000円をお返しします（手続きについては、対象者に別途連絡します。） オ 二重に振り込んだ場合及び出願書類を提出しなかった場合（出願が受理されなかった場合を含む）は、17,000円をお返ししますので、本学学生部学務課入試担当にお問い合わせください。</p>

(4) 出願におけるその他の注意事項

- ア 本学への出願は、前期日程及び後期日程の学科から各1学科の出願ができます。また、同一学科の前期日程及び後期日程両方への併願も可能です。
- ※国公立大学（国際教養大学及び新潟県立大学を除く。以下同じ）の一般入試は、分離分割方式の「前期日程」及び「後期日程」並びに「公立大学中期日程」の各グループから、1つの大学・学部（学科）を受験することができます。すなわち、最大3つの国公立大学・学科を受験することが可能です（推薦入試等を除く）。
- イ 入学願書受付完了後、令和2年2月14日（金）頃に受験票を発送します。2月19日（水）を過ぎても受験票が届かない場合は、学務課入試担当（TEL 075-703-5144）にお問い合わせください。
- ウ 入学願書受付後は、志望学科の変更はできません。また、提出書類の返却はいたしません。
- エ 本学及び他の国公立大学の前期日程に合格し、当該大学の定める期日までに入学手続を行った者は、「後期日程」及び「公立大学中期日程」の試験を受験しても合格者となりません。この場合、本学の後期日程に出願していても、入学考査料はお返しできません。
- オ 国公立大学の推薦入学試験等合格者は、本学の一般入試に出願していても受験することはできません。また、入学考査料はお返しできません。たとえ受験しても無効になりますので、あらかじめご了承ください。ただし、入学辞退について、当該大学の許可を得た場合はこの限りではありません。
- カ 指導要録の保存期間が経過した者、廃校、被災などの事情により、出身学校長作成の調査書が得られない者は、「卒業証明書」及び「成績証明書」を提出してください。成績証明書を提出できない場合は、「卒業証明書」に加えて、学校長からの「発行できない旨の書面」を提出してください。

9 大学入試センター試験を利用する教科・科目等

- (1) 出願にあたっては、P.15～16の表に示しているとおりの大学入試センター試験の教科・科目を受験しているかどうかを確認してください。受験した教科・科目数が不足している場合や、科目選択にかかる注意事項が守られていない場合は、無資格となります。
- (2) 「英語」において、リスニングを受験しなかった場合、有資格者として扱いますが、リスニングは0点とします。
- (3) 「地理歴史」及び「公民」並びに「理科」において、第1解答科目で各学科が指定していない科目を受験した場合は、第2解答科目で各学科が指定する科目を受験していても、無資格となり個別学力試験を受験することができません。

◆大学入試センター試験の利用教科・科目確認表

(1) 前期日程

学部	学 科	教科	大学入試センター試験の指定科目
文 学 部	日本・中国文学科	国語	国語
		地理歴史・公民	世界史B、日本史B、地理B、現代社会、倫理、政治・経済、「倫理、政治・経済」から1科目
		外国語	英語、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語から1科目 [英語]はリスニングを含む 《3教科3科目》
	欧米言語文化学科	国語	国語
		地理歴史・公民	世界史B、日本史B、地理B、「倫理、政治・経済」から1科目
		外国語	英語、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語から1科目 [英語]はリスニングを含む 《3教科3科目》
	歴史学科	国語	国語
		地理歴史・公民	世界史B、日本史B、地理Bから1科目
		外国語	英語、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語から1科目 [英語]はリスニングを含む 《3教科3科目》
	和食文化学科	国語	国語
		地理歴史・公民	世界史B、日本史B、地理B、現代社会、倫理、政治・経済、「倫理、政治・経済」から1科目
		数学	数学の全ての科目から1科目
理科		(物理、化学、生物、地学)から1科目、又は、(物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎)から2科目	
外国語		英語、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語から1科目 [英語]はリスニングを含む 《5教科5科目又は6科目》	
公共 政策 学部	公共政策学科	国語	国語
		地理歴史・公民	地理歴史、公民の全ての科目から1科目
	福祉社会学科	数学	数学の全ての科目から1科目
		理科	(物理、化学、生物、地学)から1科目、又は、(物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎)から2科目
生 命 環 境 学 部	生命分子化学科 農学生命科学科 森林科学科	国語	国語
		地理歴史・公民	地理歴史、公民の全ての科目から1科目
		数学	数学Ⅰ・数学A及び数学Ⅱ・数学Bの2科目
		理科	物理、化学、生物、地学から2科目
	食保健学科	外国語	英語(リスニングを含む) 《5教科7科目》
		国語	国語
		地理歴史・公民	地理歴史、公民の全ての科目から1科目
		数学	数学Ⅰ・数学A及び数学Ⅱ・数学Bの2科目
	環境・情報科学科	理科	物理、化学、生物から2科目
		外国語	英語(リスニングを含む) 《5教科7科目》
		国語	国語
		地理歴史・公民	地理歴史、公民の全ての科目から1科目
環境デザイン学科	数学	数学Ⅰ・数学A及び(数学Ⅱ・数学B、簿記・会計、情報関係基礎から1科目)の2科目	
	理科	物理、化学、生物、地学から2科目	
	外国語	英語(リスニングを含む) 《5教科7科目》	
	国語	国語	
環境デザイン学科	地理歴史・公民	地理歴史、公民の全ての科目から1科目	
	数学	数学Ⅰ・数学A及び数学Ⅱ・数学Bの2科目	
	理科	物理、化学、生物、地学から1科目	
	外国語	英語(リスニングを含む) 《5教科6科目》	

(2) 後期日程

学部	学 科	教科	大学入試センター試験の指定科目
文 学 部	日本・中国文学科	国語	国語
		地理歴史・公民	世界史B、日本史B、地理B、現代社会、倫理、政治・経済、「倫理、政治・経済」から1科目
		外国語	英語、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語から1科目 [英語]はリスニングを含む 《3教科3科目》
	欧米言語文化学科	国語	国語
		地理歴史・公民	世界史B、日本史B、地理B、「倫理、政治・経済」から1科目
		外国語	英語、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語から1科目 [英語]はリスニングを含む 《3教科3科目》
	歴 史 学 科	国語	国語
		地理歴史・公民	世界史B、日本史B、地理Bから1科目
		外国語	英語、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語から1科目 [英語]はリスニングを含む 《3教科3科目》
	和 食 文 化 学 科	国語	国語
		地理歴史・公民	世界史B、日本史B、地理B、現代社会、倫理、政治・経済、「倫理、政治・経済」から1科目
		数学	数学の全ての科目から1科目
理科		化学、生物から1科目	
外国語		英語、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語から1科目 [英語]はリスニングを含む 《5教科5科目》	
公 共 政 策 学 部	公 共 政 策 学 科	国語	国語
		地理歴史・公民	地理歴史、公民の全ての科目から1科目
	福 祉 社 会 学 科	数学	数学の全ての科目から1科目
		理科	(物理、化学、生物、地学) から1科目、又は、(物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎) から2科目
		外国語	英語、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語から1科目 [英語]はリスニングを含む 《5教科5科目又は6科目》
生 命 環 境 学 部	生 命 分 子 化 学 科	国語	国語
		数学	数学Ⅰ・数学A及び数学Ⅱ・数学Bの2科目
		理科	物理、化学、生物、地学から2科目
		外国語	英語(リスニングを含む) 《4教科6科目》
	農 学 生 命 科 学 科	数学	数学Ⅰ・数学A及び数学Ⅱ・数学Bの2科目
		理科	物理、化学、生物、地学から2科目
		外国語	英語(リスニングを含む) 《3教科5科目》
	環 境 デ ザ イン 学 科	国語	国語
		地理歴史・公民	地理歴史、公民の全ての科目から1科目
		数学	数学Ⅰ・数学A及び数学Ⅱ・数学Bの2科目
		理科	物理、化学、生物、地学から1科目
	森 林 科 学 科	外国語	英語(リスニングを含む) 《5教科6科目》
国語		国語	
地理歴史・公民		地理歴史、公民の全ての科目から1科目	
数学		数学Ⅰ・数学A及び数学Ⅱ・数学Bの2科目	
理科		物理、化学、生物、地学から2科目	
外国語	英語(リスニングを含む) 《5教科7科目》		

(注) 前期日程・後期日程ともに

ア 地理歴史及び公民並びに理科の試験時間において、2科目を選択する場合で、当該学科が1科目のみ課している場合は、第1解答科目の得点を採用します。

イ 数学の試験時間において、2科目を選択する場合で、当該学科が1科目のみ課している場合は、高得点の科目の得点を採用します。

ウ 理科の試験時間において、「基礎を付した科目」2科目及び「基礎を付していない科目」1科目を選択する場合で、当該学科が「基礎を付した科目」2科目又は「基礎を付していない科目」1科目を課している場合は、高得点の科目の得点を採用します。

10 個別学力検査の試験会場

京都府立大学 京都市左京区下鴨半木町1-5 (P.22試験会場案内図参照)

※前期・後期日程とも試験会場の下見は可能ですが、建物内(試験室)には入室できません。

11 個別学力検査の教科・科目・時間

- (1) 個別学力検査において、本学各学科が指定する選抜方法の教科(小論文・実技を含む)を1教科でも受験していない場合は、失格となります。
- (2) 個別学力検査の歴史、理科等選択科目のある教科での受験科目の選択は、試験当日、受験者が試験室において行ってください。
- (3) 生命環境学部の「食保健学科」「環境・情報科学科」は、前期日程のみで後期日程はありません。

ア 前期日程 令和2年2月25日(火)

学部	学 科	教 科	科 目	試験時間
文 学 部	日本・中国文学科	国 語	国語総合、現代文B、古典B	9:30～11:00(90分)
	欧米言語文化学科	外国語	コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、英語表現Ⅰ・Ⅱ	12:15～13:45(90分)
	歴史学科 和食文化学科	歴 史	世界史B、日本史Bから1科目	14:30～16:00(90分)
公 共 政 策 学 部	公共政策学科	国 語	国語総合、現代文B、古典B	9:30～11:00(90分)
	福祉社会学科	外国語	コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、英語表現Ⅰ・Ⅱ	12:15～13:45(90分)
生 命 環 境 学 部	生命分子化学科 森林科学科	数 学	数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学A、数学B なお、数学Bは「数列」「ベクトル」から出題	9:30～11:00(90分)
		外国語	コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、英語表現Ⅰ・Ⅱ	12:15～13:45(90分)
		理 科	(物理基礎・物理)(化学基礎・化学)(生物基礎・生物)から2科目	14:30～17:30(180分)
	農学生命科学科 食保健学科	外国語	コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、英語表現Ⅰ・Ⅱ	12:15～13:45(90分)
		理 科	(物理基礎・物理)(化学基礎・化学)(生物基礎・生物)から2科目	14:30～17:30(180分)
	環 境 ・ 情 報 科 学 科	数 学	数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Ⅲ、数学A、数学B	11:45～13:45(120分)
		理 科	(物理基礎・物理)(化学基礎・化学)(生物基礎・生物)から2科目	14:30～17:30(180分)
	環 境 デ ザ イ ン 学 科	外国語	コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、英語表現Ⅰ・Ⅱ	12:15～13:45(90分)
		理 科	(物理基礎・物理)(化学基礎・化学)(生物基礎・生物)から1科目	14:30～16:00(90分)

イ 後期日程 令和2年3月12日(木)

学部	学 科	教 科	科 目	試験時間
文 学 部	日本・中国文学科	国 語	国語総合、現代文B、古典B	13:30～15:30(120分)
	欧米言語文化学科	外国語	コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、英語表現Ⅰ・Ⅱ	13:30～15:00(90分)
	歴 史 学 科	歴 史	世界史B、日本史Bから自由選択	13:30～15:30(120分)
	和 食 文 化 学 科	小論文		13:30～16:00(150分)
公 共 政 策 学 部	公 共 政 策 学 科 福 祉 社 会 学 科	小論文		13:30～16:00(150分)
生 命 環 境 学 部	環境デザイン学科	美 術	実技	13:30～15:00(90分)
	生命分子化学科 農学生命科学科 森 林 科 学 科	個別学力検査は課さない (センター試験の成績による判定)		—

(注) 環境デザイン学科の美術(実技)の試験については、物品、空間の基本的な把握力、構成力、表現力を見ます。用紙及びカルトンを本学で用意しますので、黒鉛筆(硬さ・濃さ、本数は自由)及び消しゴムのみを各自持参し、試験に臨んでください。

12 個別学力検査受験についての注意事項

(1) 試験当日の注意事項

- ア 受験には、必ず、令和2年度大学入試センター試験受験票及び本学個別学力検査受験票を持参してください。なお、どちらの受験票も入学手続き時に必要ですので、試験終了後も大切に保管してください。
- イ 最初の試験開始時間30分前に、試験室に集合してください。遅刻は、試験開始後30分以内であれば、入室を認めます(30分経過後は入室不可)。
- ウ 試験時間中に机の上に置けるものは、「受験票」「黒の鉛筆又はシャープペンシル(筆記機能のみ)」「鉛筆削り(電動式を除く)」「消しゴム」「鉛筆キャップ」「時計(辞書、電卓、端末等の機能のあるものや、それらの機能の有無が判別しづらいもの・秒針音のするもの・大型のものは不可)」「眼鏡」「ハンカチ」「ティッシュペーパー(袋又は箱から取り出したもの)」「目薬」です。健康上その他やむを得ない理由により、上記以外のものを使用したい場合は、監督者の指示に従ってください。
- エ 時計は、アラーム設定を解除してください。
- オ 携帯電話・スマートフォン等の電子機器類は、アラーム設定を解除し、電源を切っておいってください。
- カ 試験場構内への二輪車(自転車・バイク)、自動車等の車両の乗り入れはできません。
- キ 試験場の建物内はすべて禁煙です。

(2) 不正行為について

- ア 次のことをすると不正行為となります。不正行為を行った場合は、それ以後の受験はできません。また、既に受験したすべての教科・科目の成績も無効となります。

- 1 カンニング(試験の教科・科目に関係するメモやコピーなどを机上等に置いたり見たりすること、教科書、参考書、辞書等の書籍類の内容を見ること、他の受験者の答案等を見ること、他の人から答えを教わることなど。)をすること。
- 2 使用の認められたもの以外の用具を使用して問題を解くこと。
- 3 「解答はじめ」の指示の前に、問題冊子を開いたり、解答を始めること。
- 4 照合票に本人以外の写真を貼ること。

- 5 本人に代わって受験し、又は、受験させること
- 6 他の受験者に答えを教えたりカンニングの手助けをすること。
- 7 試験時間中に、携帯電話、スマートフォン、ウェアラブル端末、電子辞書、ICレコーダー等の電子機器類を使用すること。
- 8 「解答やめ。鉛筆を置いて問題冊子を閉じてください」の指示に従わず、鉛筆や消しゴムを持っていたり、解答を続けること。

イ 上記ア以外に次のことをすると不正行為になることがあります。指示に従わず、不正行為となった場合の取扱いは、アと同様です。

- 1 試験時間中に、使用の認められたもの以外の用具や携帯電話、スマートフォン、ウェアラブル端末、電子辞書、ICレコーダー等の電子機器類、教科書、参考書、辞書等の書籍類をかばんに等にしまわず、身に付けていたり手に持っていること。
- 2 試験時間中に携帯電話や時計等の音（着信・アラーム・振動音など。）を長時間鳴らすなど、試験の進行に影響を与えること。
- 3 試験に関することについて、自身や他の受験者が有利になるような虚偽の申し出をすること。
- 4 試験場において他の受験者の迷惑となる行為をすること。
- 5 試験場において試験監督者等の指示に従わないこと。
- 6 その他、試験の公平性を損なうおそれのある行為をすること。

13 悪天候・災害等の試験実施について

悪天候や災害等で入学試験の実施に支障が生じるおそれがある場合は、試験時刻の繰り下げ等の措置内容を、試験当日、試験開始時刻1時間前に本学ホームページ (<http://www.kpu.ac.jp/>) に掲載します（予定どおり実施する場合は、特に掲載しません。）。

14 大学入試センター試験及び個別学力検査の配点

(1) 前期日程

学部	学 科	試験区分	国 語	地 歴	公 民	数 学	理 科	外国語	計	合 計
文 学 部	日本・中国文学科	センター試験	200	*100	*100			200	500	1200
		個別学力検査	300	200				200	700	
	欧米言語文化学科	センター試験	200	*100	*100			200	500	1200
		個別学力検査	200	200				300	700	
	歴 史 学 科	センター試験	200	200				200	600	1300
		個別学力検査	200	300				200	700	
和 食 文 化 学 科	センター試験	200	*100	*100	100	100	200	700	1300	
	個別学力検査	200	200				200	600		
公共政策学部	公 共 政 策 学 科	センター試験	100	*200	*200	100	100	100	600	1000
		個別学力検査	200					200	400	
福 祉 社 会 学 科	センター試験	100	*200	*200	100	100	100	600	1000	
	個別学力検査	200					200	400		
生 命 環 境 学 部	生命分子化学科	センター試験	200	*100	*100	200	200	200	900	1700
		個別学力検査				200	400	200	800	
	農学生命科学科	センター試験	200	*100	*100	200	200	200	900	1400
		個別学力検査					300	200	500	
	食 保 健 学 科	センター試験	200	*100	*100	200	200	200	900	1500
		個別学力検査					400	200	600	
環 境 ・ 情 報 科 学 科	センター試験	100	*100	*100	100	100	200	600	1400	
	個別学力検査				400	400		800		
環 境 デ ザ イ ン 学 科	センター試験	100	*100	*100	200	100	100	600	800	
	個別学力検査					100	100	200		
森 林 科 学 科	センター試験	200	*100	*100	200	200	200	900	1600	
	個別学力検査				200	300	200	700		

(2) 後期日程

学部	学 科	試験区分	国 語	地 歴	公 民	数 学	理 科	外国語	小論文	美 術	計	合 計
文学部	日本・中国文学科	センター試験	200	*100	*100			200			500	800
		個別学力検査	300								300	
	欧米言語文化学科	センター試験	100	* 50	* 50			200			350	650
		個別学力検査						300			300	
歴史学科	歴史学科	センター試験	200	200				200			600	800
		個別学力検査		200							200	
和食文化学科	和食文化学科	センター試験	200	*100	*100	100	300	200			900	1400
		個別学力検査							500		500	
公共政策学部	公共政策学科	センター試験	100	*200	*200	100	100	100			600	1000
		個別学力検査							400		400	
福祉社会学科	福祉社会学科	センター試験	100	*200	*200	100	100	100			600	1000
		個別学力検査							400		400	
生命環境学部	生命分子化学科	センター試験	200			300	300	200			1000	1000
	農学生命科学科	センター試験				200	200	200			600	600
	環境デザイン学科	センター試験	100	*100	*100	200	100	100			600	800
		個別学力検査								200	200	
森林科学科	センター試験	200	*100	*100	200	200	200			900	900	

(注) 前期日程・後期日程ともに

ア *は、選択による配点です。

イ 大学入試センター試験の英語の配点について

(ア) 筆記試験 (200点満点) とリスニング (50点満点) の合計250点を200点満点に換算します。

(イ) 環境デザイン学科については、合計250点を100点満点に換算します。

(ウ) 公共政策学部については、リスニング (50点満点) の点数を20点満点に換算し、筆記試験 (200点満点) との合計点を100点満点に換算します。

15 合格発表

前期日程 令和2年3月6日 (金) 正午

後期日程 令和2年3月23日 (月) 正午

- 合格発表は、いずれも本学構内の掲示板に合格者の受験番号を掲示及び本学のホームページ (<http://www.kpu.ac.jp/>) に掲載するとともに、合格者には、合格通知書を郵送します。
なお、電話その他による問い合わせには一切応じられません。
- 試験当日に、試験場周辺や最寄駅等で合否電報の勧誘があっても、本学とは一切関係ありませんので、十分ご注意ください。

16 入学手続

- 合格者には、合格発表後、合格通知書と併せて入学手続に必要な書類を郵送しますので、次により入学手続を行ってください。

	学部 (学科)	日 時	当日必要な書類
前期日程	文学部 (全学科) 公共政策学部 (全学科) 生命環境学部 (全学科)	令和2年3月13日 (金) 午前10時から午後3時まで	● 誓約書 (本学所定の様式) ● 令和2年度大学入試センター試験受験票
後期日程	文学部 (全学科) 公共政策学部 (全学科) 生命環境学部 (生命分子化学科 農学生命科学科 環境デザイン学科 森林科学科)	令和2年3月27日 (金) 午前10時から午後3時まで	● 個別学力検査受験票 ● 京都府立大学入学料振込金領収証明書 (B票) ● 学生教育研究災害傷害保険料振込金領収証明書 (B票) ● 住民票 (入学料の京都府内額169,200円適用者のみ)

(2) 入学手続における注意事項

- ア 入学手続は、原則として、上記日時に本学に来学の上、行ってください。指定した日時に来学できない場合は、必ず連絡してください。
- イ 上記日時に入学手続を完了しない場合は、入学辞退者として扱います。
- ウ 合格者は、一つの国公立大学に入学手続をしたときは、これを取り消して他の国公立大学に入学手続をすることはできません。
- エ 入学手続後は、理由の如何を問わず、入学料はお返ししません。
- オ 追加合格者の入学手続は、別途定める期日とし、入学手続は上記と同様とします。

17 追加合格

入学手続完了者が募集人員に満たない場合は、合格者を追加することがあります。
この場合、3月28日（土）以降に追加合格者を決定し、該当者には電話により、直接連絡しますので、3月28日以降の本人の連絡先（携帯電話等）を入学願書に記載してください。
本人が不在でも確実に連絡が取れるようにしておいてください。

18 学費等納付金（入学料・授業料等） ※金額は改訂される場合があります。

種 類		金 額	備 考
入学料	京都府内額適用者	1 6 9 , 2 0 0 円	入学手続までに、所定の振込用紙にて振り込んでください。
	上記以外の者	2 8 2 , 0 0 0 円	
授業料	前 期	2 6 7 , 9 0 0 円	入学後、口座引き落としにより、前期(5月。次年度以降は4月)と後期(10月)の2回の分納となります。
	後 期	2 6 7 , 9 0 0 円	
	計	5 3 5 , 8 0 0 円	
学生教育研究災害傷害保険料		4 , 6 6 0 円	入学手続までに、所定の振込用紙にて振り込んでください。

- (注) (1) 京都府内額適用者とは、平成31年4月1日以前から引き続き京都府内に生活の本拠を置き、現に居住しており、住民票で証明可能な者をいう。
(2) 学科により、授業開始後、実験費・実習費を徴収することがあります。

19 試験成績の情報提供について

京都府立大学一般選抜試験の個人別試験成績の情報提供については、令和2年4月までに本学ホームページ (<http://www.kpu.ac.jp/>) に掲載します。

20 個人情報取扱

- (1) 入学試験を通じて取得した氏名、住所、その他の個人情報については、①入学者選抜（出願処理、試験実施）、②合格発表、③入学手続業務を行うために利用します。
- (2) 入学試験の試験成績は、今後の入学試験方法の検討のため利用します。
- (3) 国公立大学の分離分割方式による合格及び追加合格決定業務を円滑に行うため、氏名、受験番号、大学入試センター試験受験番号、可否及び入学手続に関する個人情報を、独立行政法人大学入試センター及び併願先国公立大学に送付します。
- (4) 入学試験を通じて取得した個人情報は、入学者のみ、①教務関係（学籍管理、修学指導等）、②学生支援関係（健康管理、就職支援、授業料免除・奨学金申請等）、③授業料徴収に関する業務を行うために利用します。

個別学力検査 試験会場案内図

- 入学試験会場
- 所在地
- 交通機関

京都府立大学
京都市左京区下鴨半木町1-5

①② JR京都駅・
阪急烏丸駅から

地下鉄烏丸線 「北山」駅下車 1番出口から南へ徒歩10分

③ 京阪出町柳駅から

市バス 1系統「府立大学前」下車 北へ徒歩5分
京都バス 32、34、35系統「府立大学前」下車 北へ徒歩5分

④ JR二条駅から

地下鉄東西線「烏丸御池」駅下車乗換、烏丸線「北山」駅下車 1番出口から南へ徒歩10分
市バス 206系統「府立大学前」下車 北へ徒歩5分

- (注意)
- ・ 合格電報の受付は京都府立大学と一切関係ありませんので、十分ご注意ください。
 - ・ 下鴨中通の正門から入場してください(試験室への案内を掲示)。
 - ・ 試験場構内への二輪車(自転車・バイク)、自動車等の車両の乗り入れはできません。
 - ・ 昼食は各自持参してください。



◆◆入試に関する問い合わせ先◆◆

〒606-8522
京都市左京区下鴨半木町1-5

京都府立大学学務課入試担当

電話 (075) 703-5144 (直通)

受付時間：土、日、祝を除く8:30~17:15
(昼休み12:45~13:45を除く。)

<http://www.kpu.ac.jp/>



※ 出願状況については、「大学入試センター」、「京都府立大学」のホームページで公表します。



京都府立大学学生部学務課